



小 路

え と 文

菊 永 省 吾

くづれかけた古い土塀、赤い柿、どこにでもありそうな小路ですが、私にとっては、十代の後半まで過ごした小さな町の小さな路地です。晩秋の冷えびえとした夕刻、何げなくスケッチしたこの風景が、なぜか気に入り、下絵を幾枚か描いた後、仕上げました。写生しながら、聞き入っていたラジオの実況放送、栃錦が……、若乃花が……全盛だった。そんな時代を思い出させてくれる風景です。

(女子大学庶務課職員)